

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家 ふじユニット		
所在地	津島市江西町4丁目148番地		
自己評価作成日	平成23年9月11日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に楽しく過ごして頂けるように、職員同士が話し合い、様々な季節ごとの行事取り組みを行っている。毎月の誕生会はケーキとおやつをご入居者と一緒手作りし、ケーキの前に記念写真を撮りその場でプレゼントしている。また、毎月ユニット単位で外食(回転寿司や和食処)を行っている。その他、季節の行事については、正月は津島神社へ初詣に出掛け、春はお花見やふじの花の見学に出掛ける。夏には施設内で納涼祭を2回実施し好評頂く。内容はスイカ割りや流しそうめん、かき氷、綿菓子なども用意しご入居者に体験して頂く。9月に行った1周年祭はご家族の方を招待してイベント(1年のスライドショー、昔の写真当てゲーム)を実施した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年9月に開設し2年目を迎えたホームである。法人理念の「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」をホームの理念としている。国道155号線から路地に入った静かな住宅地の中にあり、近くには図書館がある。散歩で立ち寄り本を借りる利用者もいる。行事が多く、誕生会や外食レク等を毎月実施、ハワイアンダンスやマジック等のボランティアも受け入れている。重度化や終末期の対応はしていないが、入院先を探したり特養を 紹介したり対応している。運営推進会議は定期的開催し、市役所や包括支援センターの職員や家族、地域の人等の参加がある。研修は、定期的に外部研修参加の機会があり、内部研修の実施もしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時の職員オリエンテーションで、地域密着型サービス、グループホームについて説明し、認識を共有している。	法人理念の「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」をホームの理念としている。開所から1年経ちホーム独自の理念を作ろうと検討している。	ホーム独自の理念ができることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な地域との交流は特にないが、隣家に差野菜やお花をいただいたり、逆に施設の行事に招待したりしている。	自治会に入っており、日々の散歩時には挨拶を交わしている。地域の保育園児の訪問がある。来年度以降、ホーム行事のもちつきに地域の人に声をかけていく予定である。	地域との交流が進むように今後の取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の人々に向けて活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の嘱託や民生委員が参加し、毎回活動報告を行っている。逆に、意見はあまりいただけていない。	2ヵ月ごとに開催し、市役所職員・地域包括支援センター職員・民生委員・江西長四丁目の区長・利用者・利用者家族の参加がある。会議での意見がきっかけとなり、ハワイアンダンスやマジックのボランティアに定期的に訪問してもらっている。。また、ホームページに対しての意見を家族からもらい改善できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か困ったことがあったらその都度相談するようにしている。積極的に取り組みを伝えるまでは出来ていない。	随時相談をし、ホームの状況報告をおこなっている。運営推進会議にも毎回参加してもらっている。地域の介護事業所の会議に参加をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に玄関の施錠は行っていない。今まで身体拘束を行った実績はない。開設前に職員に対して身体拘束について研修を実施し、共通の認識が出来ている。	職員会議で振り返りをし、身体拘束をしないケアの実践を確認している。研修を受け、職員は言葉による身体拘束もあると理解している。玄関の施錠はしていなかったが、ユニットの出入り口は施錠をしていた。利用者の様子を職員が見ていて、出ることは可能なようであった。	今後も利用者の様子に気を配り、鍵をかけて安心してしまわないようにして欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時と職員の新規採用時に虐待についての研修を行い、高齢者虐待防止法、また虐待とは何かについて学び、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対しての研修の機会は今のところ設けられていない。事務所にパンフレットを設置し、必要な方が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時の説明の際は、「今までの所でご不明な点はありませんか？」と尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱等の設置は行っていない。運営推進会議については、ご家族にその趣旨を案内して参加を促している。	施設長や職員は、利用者や家族等から何でも言ってもらえる環境作りに努めている。家族の来訪時に話をし、出された意見や要望を運営に活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議で意見を上げる機会を設けている。また、定期的に職員の意見を聞き、取り入れている。	職員は施設長に意見や提案を日頃からしている。出された意見や提案はすぐに改善できるものはすぐに改善している。(例:お薬手帳を導入)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長会議にて職員個々の状況を報告している。給与水準ややりがいを持てる環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者をはじめ職員は、定期的に外部研修へ参加する機会が確保されている。また内部研修も実施している。職員の状況は会議の際に管理者から報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協会に加入し、ブロック会議に参加している。また、認知症実践者研修に参加している職員が、その研修の中で他施設の職員と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテークでは、不安なことや困っている事を中心に話を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの段階では、まずご家族が相談に来られるケースが多い。その際には困っている事、不安なことを中心に話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みに来られてもすぐに入居となる事はほとんどない。本人が在宅での生活を望んでいるケースが多く、その時は居宅介護支援事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事を把握し、洗濯物を干したり畳んだり等職員と入居者が一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の来られたご家族と入居者と職員と一緒に喫茶店へコーヒーを飲みに出掛けてたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家の近所のスーパーによく買い物に行っていたという入居前からのなじみの場所へ出かけられるように支援している。	家族以外に知人の面会がある利用者もあり、自宅に届いている郵便物を隣人が届けてくれることもある。また、自宅に定期的に帰る人もいる。できるだけ利用者の希望に添い、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中は1階と2階の入居者が合同で体操やゲームをし、その後にお茶を飲む日課になっている。仲の良い入居者同士は居室で時間を過ごしたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも何度かご家族にお越しいただいたり、電話で現在の様子を聞いたり相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントを実施している。また、入居者に対し「アンケート」を実施している。	利用者ごとに担当職員が決まっており、本人や家族から思いや意向を聞いている。また、困難な場合には、態度や仕草等から察して利用者本位に検討している。また、ホームのアンケートの実施でも利用者の気持ち、意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された後に居室担当者が「入居者の生活歴」を話を聞きながらまとめ、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者による定期的なアセスメントとカンファレンスにより、現在のできる事、できない事や心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員が全員集まるフロア会議で職員の意見を集めながら介護計画を策定している。	毎月の会議で職員、家族の意見を取り入れ、利用者の立場に立ち介護計画を作成している。毎月モニタリングをおこない、介護計画は半年ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護実施記録に職員個々の「気づき」を記入し、職員間での情報共有や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある入居者が若い頃に務めていた銀行のOB会が名駅のホテルであり、強く参加を希望された為、ご家族に了承を得、介護送迎サービスと付添サービスを手配し、無事に参加する事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて10分ほどの場所に市立図書館があるが、入居者の希望により時々本を借りに出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診の意向を確認している。入居前からの主治医を継続している方が現在3名いる。	協力医とは連携が取れており、早朝深夜も連絡が取れる体制になっている。歯科受診時には職員が付き添っている。利用者の様子や変化を家族に随時伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に市民病院へ入院されているが、ケースワーカーと連携をとり、状況を確認している。また定期的に広報誌を配布し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所としての方針を説明している。	重要事項説明書で看取りに関する指針を謳っており、説明している。入居時に本人や家族に意思確認もしている。医療・家族と連携を取り、利用者の尊厳に配慮し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法に関する研修を定期的に行っている。7月にはハイムリック法の実技研修を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、入居者と職員が一緒になって訓練を行っている。地域との協力体制までは現状築けていない。	夜間を想定し、緊急の避難場所を決めて避難訓練をおこなっている。地域の協力体制がまだ得られていない為、近所に住む職員が対応する体制を取っている。2階の車いす利用者を外に出すことを検討中である。	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認など実施されてはどうか検討されたい。また、地域との協力体制を図り、訓練の実施ができるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に関する研修によって理解を深め、一人ひとりの人格を尊重するように指導している。	利用者の情報の守秘義務について理解し、一人ひとりのプライバシーに気をつけている。たとえば、調査当日にトイレ誘導時など、さりげなく声をかけているのが伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の意思を確認しながら、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決められた日課はあるが、まずご入居者に参加するかどうかの意思を確認している。家事に関しても無理にしていだかないような配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容について、ご自分でできる方は声掛けだけ行っている。入居前からのなじみの洋服屋へ好きな服を買いに出かけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々によって食事の準備の出来る程度は異なる為、職員が必ず関わっている。片付けは入居者が洗っていただいているが、必要に応じて確認している。	利用者の残存機能が活かせるように、盛り付けや片付けを職員と一緒にこなっている。楽しく食事が出来るように食事中は音楽を流し、献立には利用者の意見が取り入れられている。花見には弁当持参で出かけ、誕生会ではケーキを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が一目で分かるような一覧表を導入している。それにより、以前の記録を参考にして必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は声掛けのみ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方は、職員の二人で支えてトイレまで歩行し、支援している。排泄の時間や様子のパターンを把握して、タイミングよく誘導している。	利用者の自尊心に配慮した声掛けをおこない、トイレで排泄できるよう支援している。半分くらいの利用者が自分でトイレへ行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に対しては、牛乳を飲んで頂くようにし、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者が「曜日を決めてほしい」と言われる事もあり、ある程度曜日を決めて支援している。入浴を嫌がられる方に対しては、入りたいというタイミングで予定日以外でも対応している。	時間、曜日に関係なく利用者がいつでも入浴できる。また入浴を嫌がる利用者には、声掛けの方法を変えたり入浴のきっかけを作る等し、安心して入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を必ずされる方、また夜もあまり睡眠をとられない方それぞれに支援している。またその日の体調により柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに個人毎の服用している薬の効用や用法が綴られており、介護職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日プリンを食べる方には希望に応じて近くのコンビニへ買い物に出掛けている。編み物の好きな方には、一緒にショッピングセンターへの買い物付添を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの天王川公園への桜の花見やふじまつりへ出かけている。近所の方がボランティアに参加してくれている。急に買い物に出かけたいという希望にも可能な限り対応している。	スーパーへの買い物や、日々の散歩は職員が付き添って出かけている。外出、外食のレクリエーションの時はユニットごとにボランティアの支援を受けながら車で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は本人の希望もあり、ご自身で財布を管理されている。買い物をする際はご自分で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングルームには電話が置いてあり、入居者が自由に使用できるようになっている。また、家族からの電話をリビングの電話につないで直接出て頂ける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けやカレンダー作りを職員と入居者と一緒にしている。空調設備を完備し、温度設定を配慮している。	リビングは開口部が広く、明るい。テレビの前にはソファが置かれ寛ぐことができる。テーブルの形は台形で六角形に組み合わせたり直線的にしたり用途に応じ変えられる。廊下は車いすがすれ違えることができる。浴室脱衣所の温度設定も配慮している。壁には季節を感じさせる利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は基本的に居室の中になるが、リビングには3人掛けのソファが配置しており、気の合ったご入居者同士で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への荷物の持ち込みは自由である旨を入居契約時にご家族やご入居者に説明している。ご夫婦の入居者は、一部屋を荷物置き場に、もうひと部屋でベッドを並べて使用されている。	仏壇や使い慣れた家具を持ち込んでいる。また畳を敷き、ベッドではなく布団で寝ている利用者もいる。家族の写真を飾っている者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ動作が出来るが場所が認識できない方に対しては、居室にトイレを設置している。居室の扉に表札を付ける支援をしている。ベッドにL字柵を設置している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2392700031
事業所名	グループホーム長寿の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目：2) 自治会には加入はしているが地域行事がないため、自治会を通じての交流はなかなかできていない。普段の散歩の際には地域の人と会うと挨拶を交わしている。隣家からは野菜や花をいただき、日頃から声をかけてもらっている。ホームからは行事に招待をしている。また、地域の保育園の園児や地域のボランティアの訪問がある。	評価	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目：3) 市役所・包括職員、民生委員、江西町4丁目区長、利用者、利用者家族の参加で2ヵ月ごとに開催している。会議での意見がきっかけとなり、ボランティアの定期的な訪問やホームページの改善ができた。	評価	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目：4) 随時相談をし、ホームの状況報告を行っている。地域の介護事業所が集まる会議に出席をした。	評価	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目：6) 意見箱の設置や家族会はないが、施設長が来訪時等に話を聞くようにしている。運営推進会議に家族が参加した際に意見が出され、ホームページを改善した。長寿の家通信を年2回以上発行している。	評価	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価	
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	評価	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	評価	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		評価	○
総合評価		評価	○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。